



令和5年度 松江市立皆美が丘女子高等学校

女子高だより 第5号

女子高だよりは女子高の“今”を
皆さまにお届けします

発行日 令和5年8月21日(月)

むこい教育

総務部 磯田 泰将

今年の大河ドラマは「どうする家康」です。家康は幼少期、駿河の国(今の静岡県)の大名、今川義元の元に、当時の慣例にならって人質として育てられていました。大河ドラマでは野村萬斎さんの好演が印象的でした。

現代の義元像は、公家かぶれをして馬にも乗れない軟弱な武将として扱われることがほとんどです。二万人を超える大軍を率いていたにもかかわらず、わずか二千人の織田信長軍に打ち取られたことが、マイナスイメージにつながっていると思われます。しかし実際は「東海道一の武将」と言われ、天下取りに最も近い武将でした。その義元には、教育界でもたびたび語られる次のような逸話が残っています。

義元は「竹千代(家康幼名)にはむこい教育をせよ」と家来に命じました。数日後、義元は家来を呼んで竹千代の様子を尋ねました。家来は得意気に、「早朝に起こし、駆け足で行動させ、粗食を与え、休憩もほとんどとらせず、星は馬術や剣術、夜は学問と、非常に厳しくしております。」と答えました。それを聞いた義元は「それはむこい教育ではない」と怒りました。「朝は好きなだけ寝させ、質素な食事を三食与えよ。武術や学問は無理強いするな。本人が望むものは何でも与えてやるがよい。それがむこい教育だ。」と言ったそうです。

義元は、家康が立派に成人すると、自分の息子の代には主従が逆転してしまうのを恐れて家臣に「むこい教育」を命じたのでしょう。

「むこい」とは「残酷、無慈悲、悲惨」という意味です。子どもをあらゆる手段で支配しようとするのも「むこい教育」だと思いますが、つらさや苦しさを乗り越える厳しさを経験させず、甘やかしてばかりいても、結果的に「むこい教育」になってしまう可能性があるということを、義元の逸話は表しているように思います。

現代は物にあふれ、「むこい教育」を行う条件が見事にそろっている環境だと言えそうです。義元が未来の日本をどこまで想像したかは知る由もありませんが、先人の教訓に感動しつつ、今後の自分の糧にしたいと思います。

インド人学生との交流会

7月28日(金)にインド人学生との交流会を行いました。
松江市を訪問しているインド人大学生との交流を通して言葉や文化の違いなどの国際感覚を身につけるきっかけとなりました。



交流会では、互いの国や文化に関するプレゼンテーションの発表や、茶道・華道体験などを行いました。



夏休み期間中も生徒会執行部のメンバーは学園祭の準備に追われています！

学園祭準備中！！



補習や部活動の後に集まり協力しながら作業を進めていました。
今年の学園祭も盛り上がりそうですね！



発行元

松江市立皆美が丘女子高等学校

住所 松江市西尾町540番地1

TEL 0852-39-0216(事務室)

0852-39-0217(職員室)

FAX 0852-39-0829

URL

<https://minamigaoka-girls-hs.matsue.ed.jp/>

1年生まつえ学校外学習の様子です。
今回の校外学習では、安部義経記念館へ行き紙すき体験を行いました。

1年生まつえ学校外学習

